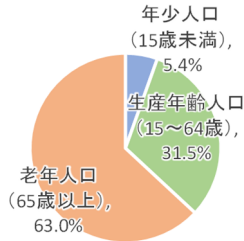


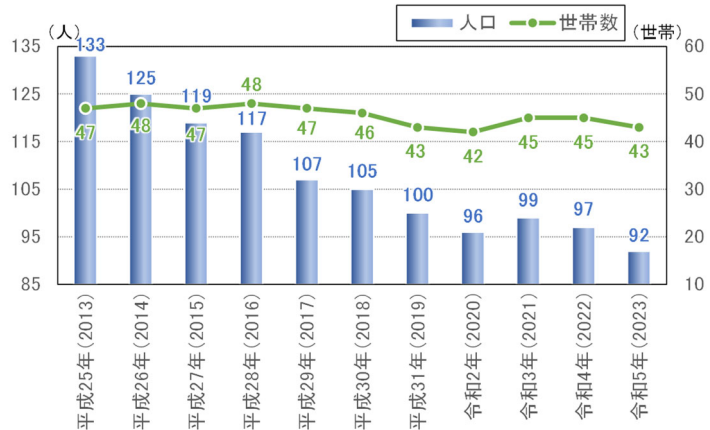
## 人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	92人
世帯数	43世帯
高齢化率	63.0%

### 年齢別人口割合



## 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



## 区域の概要

**立地** 集落は、標高350mに位置し、西側を小又川が北流する以外は周囲を山に囲まれた地域である。2,500万年前の昆虫化石の出土地もある。

**地名由来** 古く牛ヶ峰山が大崩壊して小又川をせき止め、大湖になったとき、その湖の傍らに村ができたので海上と名付けたという。『ひょうごの地名』(吉田茂樹著)では、「畝上(ウナカミ)」であり、「海」は山尾根を意味する「畝」の当て字とする。また、天平19年(747)5月に大地震があり、城崎郡凡海村が海没したので、この村人が移住して村の名を海神にしたという説もある(『但馬秘鍵抄』など)。

**歴史等** 近世の海上村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は90石余。特産物は但馬牛。地内から埋木を掘り出して販売していたという。

明治22年(1889)八田村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数84、人口は男197・女224。

## これまで把握している文化財

文化財の件数 28件 (うち指定等文化財 5件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	0	0
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	2	0
	美術工芸品	彫刻	1	1
		絵画	0	0
		工芸品	1	0
		書跡・典籍	0	0
無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	1	0	
	音楽	0	0	
	演劇	0	0	
	工芸技術	0	0	
	その他の無形文化財	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	2	0
		祭具	0	0
		民具	0	0
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	0
		年中行事・民俗芸能	4	1
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
		民間説話・俗信	2	0
記念物	遺跡	その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	3	0
		古墳・その他の墓	1	0
		城館跡・寺社跡	0	0
		街道・古道等	1	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	2	0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
		河川・滝・渓谷・湖沼	3	3
	動物・植物・地質鉱物	公園・庭園	0	0
		その他の名勝地	0	0
		動物	0	0
		植物	3	0
地質鉱物	1	0		
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	1	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



浮田堰隧道



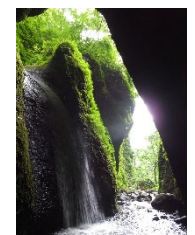
蔵王権現像



海上傘踊



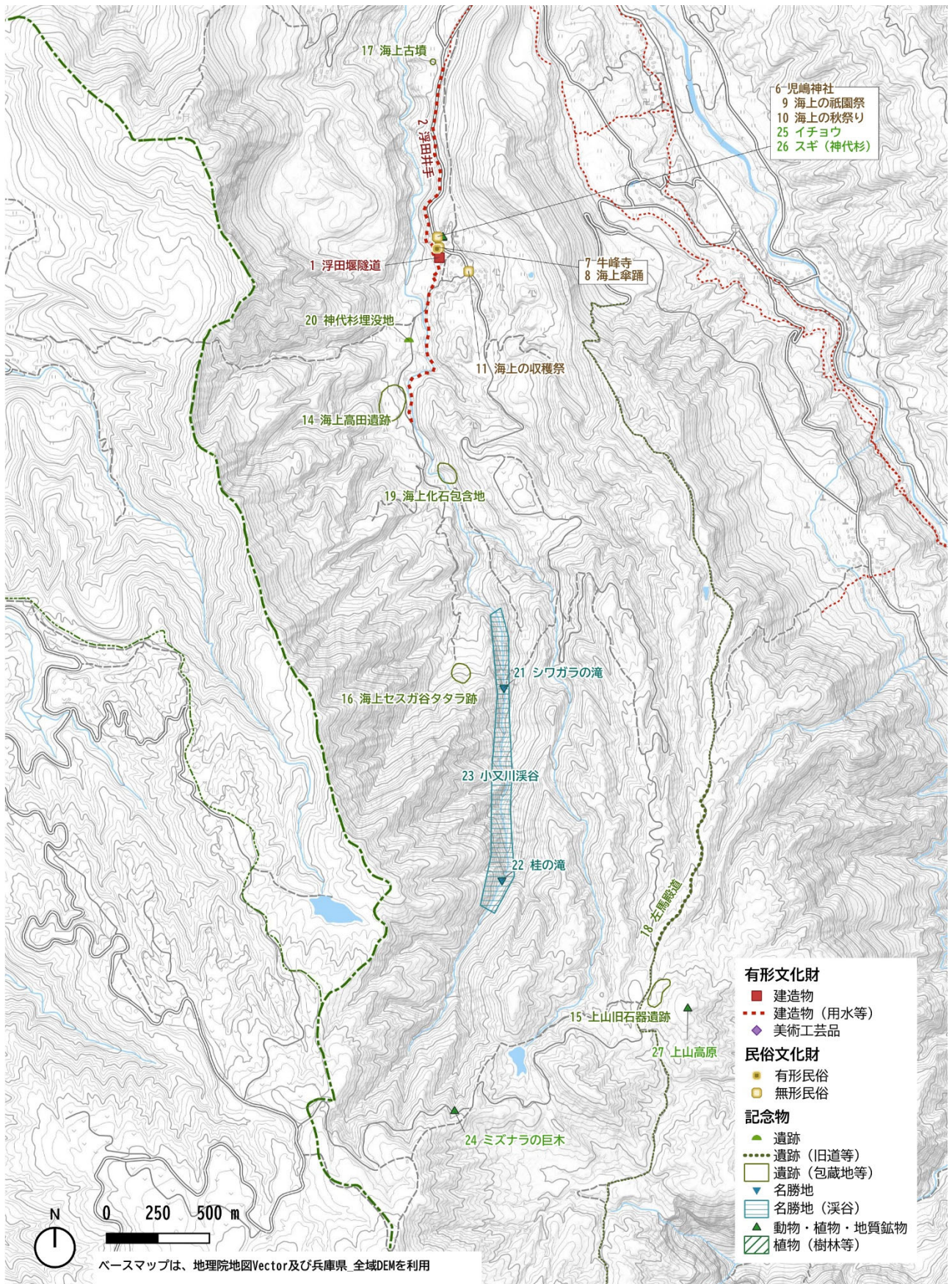
児島神社のイチョウ



シワガラの滝

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 6-08 海上

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 構造物	1	浮田堰隧道	昭和 26 年（1951）、海上地区に水源をもたらすために建設された海上浮田水路のほぼ中央に位置する長さ 318.6m の隧道。高さ 1m 前後の隧道は、周りをコンクリートで固められたアーチ型のものから剣先形のものまである。約 5m の区間が崩落し、水路が閉鎖されたため、平成 19 年度より補修工事が行われて、鉄板で補強されている。
	2	浮田井手	海拔 270m の中腹段丘にある石橋の水田を灌漑するための岸田川支流小又川からの井手。山ひだに従って屈折しながら伸びる。水路延長は 3.6km。浮田井手がかりの園田・杉山の田んぼの開発は、古文書により、1700 年代の元禄年間であったことが知られている。

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	3	蔵王権現	総高約 70cm。檜の寄せ木造り。古来、山岳信仰の守り神とされた「蔵王権現像」は但馬地方でも 3 軀しかなく貴重な仏像である。台座に大永 8 年（1528）の表記があり、その時代の作品とされる。目には玉眼、大きな火焰光背を持つ雄大な姿は凛々しいものがある。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町指定文化財</span>
工芸品	4	海上の供養塔	昭和 9 年（1934）に海上地区に起こったなだれで亡くなった 4 人の人たちを祀った碑。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	5	海上地区の古文書	山林や田畑などに関する古い文書。公民館に保管。

#### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	6	児嶋神社	祭神は天津児屋根命。創立年月は不明。牛ヶ峰明神より氏子分離して、当社を鎮守とし、児嶋権現として仰いだ。『二方考』は、牛ヶ峰神社に次ぐ旧社としている。明治 6 年（1873）10 月に村社となった。境内には八坂神社（素戔鳴命）がある。
	7	牛峰寺	山号は金鳥山。もとは牛峰山にあったが、寛文 12 年（1672）に海上部落に下山したものである。海上に創立された当時は、海上、越坂、内山の 3 部落が維持していた。本堂はきわめて良材を用い、壮麗見事な堂宇であった。しかし、明治 43 年（1910）1 月 18 日に類焼により、宝物・什器等は全く烏有に帰した。翌年（1911）3 部落の寄進によってふたたび堂宇を建立したが規模は小さく、昔日の面影をとどめていない。

#### ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	8	海上傘踊	傘踊の起源は、鳥取県国府町の「傘おどり」と同系列のものであり、徳川末期と伝わる。山陰地方が大干ばつに見舞われた時、五郎作という老農夫が三日三晩冠笠をまとい狂い踊り悲願をたてたところ、満願の日に大雨が降り出して飢饉から脱したといわれている。以来、盆行事には欠くことのできないものとなり、いつの頃からか今日のような長柄の絵模様傘や踊りへと工夫改良された。現在でも、五穀豊穡と諸先祖の霊を慰める踊りとして村の青少年達の手で保存されている。傘に大小 240 余りの鈴を付けて 2 人 1 組となって 1/2 拍子の曲に合わせて勇壮活発に踊る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町指定文化財</span>

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	9	海上の祇園祭	7月第1日曜日に行われる。
	10	海上の秋祭り	9月19日に行われる。
	11	海上の収穫祭	10月下旬に行われる。
民間説話・俗信	12	大蛇と海上	※『歴史の道調査報告書 第三集 山陰道』（平成5年、兵庫県教育委員会発行）p103 参照
	13	牛ヶ峰	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p285 参照

### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	14	海上高田遺跡	奈良時代の散布地。農道工事中に奈良時代の土器片数点を出土。
	15	上山旧石器遺跡	旧石器時代の散布地。昭和63年（1988）に横剥ぎ型ナイフ形石器を検出。山頂の三角点付近の東尾根の平原 500 m <sup>2</sup> 程度が包蔵地と考えられる。
	16	海上セスガ谷タタラ跡	弥生～古墳時代のタタラ跡（生産遺跡）。鉾澤多数散布。幕府直轄領。
古墳・その他の墓	17	海上古墳	古墳時代後期の古墳。水田内の低い丘に多数の石材を積み、蓋石らしいものを石碑に転用している。
街道・古道等	18	左馬殿道	江戸時代の初め、若桜（鳥取県）と二方（新温泉町）を支配していた山崎氏が往来し、木地師との関係も考えられる道。
その他の遺跡	19	海上化石包含地	谷の岸の照来層群の岩石中に植物化石に混じり、昆虫化石が出土する。今から約300万年前といわれる日本でも有数の昆虫化石の包含地。兵庫県レッドリスト（地質）ではCランク（市町村的価値に相当するもの）に位置付けられている。
	20	神代杉埋没地	神代杉は、杉の木が何かの原因で地中に埋まり、半分、化石になったもの。海上の昆虫化石が多く発見される場所の近くからよく出てくる。地中での保存状態がよく、青黒く変色しているものは、造作に使う高級素材として重宝され、また比較的化石化の進んでいないものは、水おけの材料に利用されてきた。海上の神代杉は、放射性炭素の測定値から約2500年前のものとして推定されている。しかし、今まで出てきた神代杉には炭化の進んだものとそうでないものの二種類が確認されている。その昔、海上地区の北西にある牛ヶ峰山が崩れて小又川がせき止められて、この地が海のようになりそこから海上と名付けられたと伝えられている（民間説話「大蛇と海上」）。それを裏付けるように牛ヶ峰山は、海上側の山頂が大きくえぐられたようなあとがある。この伝説が平安時代初期のものとする測定年代とは1300年以上の誤差があるが、牛ヶ峰山の崩落が平安初期とそれ以前にあったためとも考えられる。

### ■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・溪谷・湖沼	21	シワガラの滝	落差は約10mで、滝としては小規模であるが、その形状が特異性をもち、神々しさ・神秘さをもち合わせた優美な滝である。外からは滝がまったく見えず、川の中を進んで洞窟の内部に入ること初めてその姿を現す。昔は女人禁制で、修験者が修行をする聖域であったと伝わる。 県指定名勝（「小又川溪谷」として）
	22	桂の滝	落差35mで、苔むした岩崖をすべるように落ち、途中で腰を捻るように向きを変え、飛沫を上げて流れ落ちる。桂の滝の上流には、カツラの大木が多いため、桂滝という名になったとされる。 県指定名勝（「小又川溪谷」として）

6-08 海上

分類	番号	名称	概要
河川・滝・溪谷・湖沼	23	小又川溪谷	地質の特異性から珍しい形状をした瀑布群が数多く見られ、中でもシワガラ <small>シワガラ</small> の滝は、滝水に岩床が浸食されて、約 20 mもある洞窟が出来ており、洞窟内から滝を鑑賞する。その他、桂の滝・シワガラ <small>シワガラ</small> の滝・布滝・ヨウドメの滝などがある。またこの地帯は、大昔に大崩壊があったことを裏付ける「クモ」及び昆虫の化石が出土する地層でもある。このほか、植物群としては、カツラの大木・シャクナゲ・タジマタムラソウ・ナガエノアザミ（日本で3番目の発見場所）、ザゼンソウ群落など学術的に貴重なものがたくさんある。兵庫県レッドリスト（自然景観）ではBランク（地方的価値、都道府県の価値に相当するもの）に位置付けられている。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県指定名勝</span>

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	24	ミズナラの巨木	県下第2位のミズナラの巨木。
	25	児島神社のイチヨウ	児島神社の参道石段の登り口（上山高原エコミュージアム・海上ふるさと体験ハウス前）に立つ。樹齢300年、幹回り約4mとされる巨木。
	26	児島神社のスギ（神代杉）	神代杉は、杉の木が何かの原因で地中に埋まり、半分、化石になったもので、この神代杉は火山灰の中に埋もれ、半分化石になった太古の杉である。約2500年前のものである。神代杉は、海上地区の昆虫化石が多く発見される場所の近くからよく出てくる。いにしへのロマンをかき立てる神代杉は、海上ふるさと体験ハウス前の広場に展示されている。
地質鉱物	27	上山高原	高原景観。扇ノ山東方の中腹。上山はかつての火山活動でできた火山（スコリア丘）である。現在は表面が削られて原形をとどめていないが、御茶碗を伏せたような上に凸の地形は、当時の火山を偲ぼせる。山全体がススキに覆われ、山頂までは何筋かの遊歩道が続く。また、その地形及び植生は、兵庫県レッドリストの「地形」「自然景観」の分野でいずれもBランク（地方的価値、都道府県の価値に相当するもの）に位置付けられている。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	28	上山高原のススキ草原	上山高原は、かつて春の火入れ、但馬牛の放牧、採草（牛の餌や茅利用）など、周辺地域の人々に利用され、ススキ草原が維持され、草原の豊かな生態系が維持されてきた。昭和40年（1965）頃から人々の利用がなくなると、ススキ草原は徐々にササ原や灌木に変わり、草原ならではの生態系も失われつつあった。ササや灌木を伐採し、かつて草原を維持するため実施していた山焼き、但馬牛の放牧、手刈り作業を復活させるなどの自然再生事業が進められている。再生されたススキ草原のススキは茅葺屋根の屋根材としても利用されている。

